

学校だより 《学校評価》特集号



令和7年3月24日

小野市立小野特別支援学校

令和6年度も、教職員・保護者によるアンケート、学校評議員等による関係者評価等を実施いたしました。そして、以下のように結果を分析し、まとめましたので、皆様にお知らせいたします。皆様からいただいた貴重なご意見は、令和6年度の学校経営や新たな教育実践等に生かしていきますので、なお一層のご支援、ご協力ををお願いいたします。

……☆令和6年度 学校評価に関するアンケート結果の分析……

回答数:教職員 29 、保護者 37

<A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:できていない>

1. 学校運営に関するここと

(1) 教育的ニーズに応じた教育活動の推進 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	個別の支援、指導計画をもとに個々に応じた教育活動が行われている。	21	8	0	0	
保護者	学校では、個々の子どもの能力や障害に応じた教育活動が行われている。	30	7	0	0	

・卒業後、就労後を見据えたキャリア教育の視点を持ち、9か年を見通した学校教育の構築に向け、情報整理と学部間の交流の取組を進めている。

・職員の間で児童生徒の実態把握と情報共有を丁寧に行い、学習活動を見守りつつ、支援する風土が培われてきた。今後も、各研修を通して、教員自身の研鑽に励み、資質向上に努める。

(2) 教育方針や教育活動等の啓発 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校新聞やホームページ・学級通信等で情報発信、連絡帳等で情報共有を積極的に行っている。	26	3	0	0	
保護者	学校は、学校新聞やホームページ、学級通信等で情報発信、連絡帳等で情報共有を積極的に行っていている。	30	7	0	0	

・学校ホームページで行事等の情報を定期的に配信し、保護者との情報共有や地域の人々へ情報を発信することができた。

・学校通信で本校の進める教育方針を地域へ発信することができた。継続し、教育活動の啓発に努める。

・連絡帳や学級通信で保護者に学校での様子を具体的に伝え、保護者と共に児童生徒の教育活動を推進することができた。

・教職員と児童生徒が学校安全の重要性を共感し、組織的かつ継続可能な安全教育の取組みをさらに進める。

(3) 安全安心への取り組み (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	安全点検を計画的に実施、安全管理、危機管理体制がとれている。	22	7	0	0	
保護者	学校は、安全面、危機管理面においての管理と指導をしっかり行っている。	29	6	1	1	

・セーフティプロモーションスクール(SPS)認証を受け、危機管理体制の更なる強化を進めている。計画的な訓練、学校安全に係る研修を通して、安全安心な学校づくりに努めている。今後さらに、保護者・地域と協働することができるカリキュラムの構築を進める。

・安全教育では、児童生徒と教員、学校評議員の方と共に安全点検を実施している。自分事として、危機管理意識の向上に向けて、主体的かつ組織的に取組を進めることができている。

(4) 環境整備の取り組み (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	校舎内外の美化と環境整備に努めている。	9	14	6	0	
保護者	学校は、校舎内外の美化や環境整備に努めている。	25	10	2	0	

・校舎等の老朽化に伴う環境整備は、関係部局と連携し、計画的に改修を進め、組織的に対応している。

・保護者会と連携し、親子で大掃除の実施及び教職員の職員作業を実施し、校舎内外の環境美化に努めている。

・自然豊かな本校の特色を活かし、四季を感じることができる花の栽培、薩摩芋の収穫を行っている。さらに、継続して植栽活動を行い、児童生徒、教職員、来訪者の方々への環境提供を進める。

2.児童生徒の指導(学習・生活について)

(1)子どもへの理解と関わり (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童生徒が楽しく学校生活が送れるように、児童生徒理解に努めている。	25	4	0	0	
保護者	学校の教職員は、熱意を持って子どもに関わろうと努めている。	32	4	1	0	
<ul style="list-style-type: none"> 朝研修や学部会で、児童生徒の実態把握に基づいた情報共有を行うことに努めている。今後も、教職員の支援体制の充実を図り、児童生徒に寄り添う取組を進める。 校外学習や集会活動等のねらいを明確に持ち、計画的に行なうことができている。個別支援内容をもとに教科学習の充実を図る。 今後も、医療、療育、放課後等デイサービスとの連携を定期的に行い、関係機関との継続的な支援体制の充実に繋げる。 						

(2)子どもへの指導、保護者への対応 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童や保護者の悩みや相談にきちんと対応し、児童生徒個々に応じた生活指導ができる。	20	9	0	0	
保護者	学校は、子どもや保護者の悩みや相談に適切に対応している。	29	7	1	0	
<ul style="list-style-type: none"> 学部会等で教職員間による情報共有を行い、児童生徒や保護者の方に、より丁寧な対応に努めている。 丁寧な引継ぎを行い、小中継続した支援を行うことで、9年間を通じた成長を感じられる指導体制の構築を目指す。 保護者への対応は、連絡帳や電話連絡、個別懇談を通して、きめ細やかな支援方法を共有することに努めている。 						

(3)個に応じた教育活動 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	個別の指導計画は、保護者との協議を踏まえて作成し、学習内容と達成度をわかりやすく書いていている。	20	9	0	0	
保護者	個別の指導計画は、保護者との協議を踏まえて作成され、学習内容と子どもの達成度がわかりやすく書かれている。	30	6	1	0	
<ul style="list-style-type: none"> 学部会等で教職員間による情報共有を行い、児童生徒や保護者の方に、より丁寧な対応に努めている。 丁寧な引継ぎを行い、小中継続した支援を行うことで、9年間を通じた成長を感じられる指導体制の構築を目指す。 保護者への対応は、連絡帳や電話連絡、個別懇談を通して、きめ細やかな支援方法を共有することに努めている。 						

(4)分かる授業 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	指導方法の工夫や授業改善等に積極的に取り組み、授業力向上につながっている。	17	11	1	0	
保護者	学校は、授業形態等を工夫し、分かって動ける授業づくりに取り組んでいる。	28	9	0	0	
<ul style="list-style-type: none"> 「分かる授業」としてカリキュラムマネジメントを意識した教育課程を編成した。社会見学での電車等の乗車体験と国語や算数の教科学習と体験的な学習を意図的に整合させることで児童生徒にとって実生活に活かすなど、知識と体験の双方が充実した授業づくりを行っている。 児童生徒の実態に応じた授業を展開するために、R-PDCAサイクルに基づいた授業実践に取り組んだ。今後は、評価を検証し、「わかる授業」を推進するために、授業の改善に取り組む。 						

(5)ICT教育の効果 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	ICT機器(タブレットPC等)や教材教具の工夫を通して、学習内容の理解に役立てている。	15	11	3	0	
保護者	学校は、子どもの意欲を引き出すように、ICT機器(タブレットPC等)や教材教具の工夫を通して、学習内容の理解に役立てている。	29	8	0	0	
<ul style="list-style-type: none"> ICT機器(タブレット)を活用し、目的に応じて、情報収集を主体的に行なうことができるようになってきた。 ICT機器を活用し、発達段階に応じた計算や書取機能の学習アプリケーションを使用するなど、個別最適化の学びにつながる授業づくりに努めている。 スマートフォンやタブレット使用に依存することがないように、使い方やネットリテラシー教育に取り組む。 						

(6)健康教育の推進 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童生徒の健康管理や健康保持、体力向上に努めている。	20	9	0	0	
保護者	学校は、子どもの健康管理・健康の保持増進や体力づくりに積極的に取り組んでいる。	33	4	0	0	
・定期的な身体測定を実施することで、児童生徒の発達や成長段階を考慮した上で、健康面や体力づくりの年間計画を立案した。体育的活動を効果的に実施することで、昨年度より比較し、児童生徒の活動量が増加し、心身の充実を感じられている。 ・発達段階に応じて、性教育を系統的かつ継続的に行なうことが大切である。						

(7)思いやりや助け合う心の育成 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	教育活動全般を通じて人権教育に取り組み、自尊感情や道徳心をはぐくんでいる。	17	12	0	0	
保護者	学校では、友だちとの関わりの中で思いやりや助け合う心を育てている。	32	5	0	0	
・「ふれあいフェスティバル」のオペレッタでは、表現活動を一つの軸とした教育活動に取り組んだ。本番までの練習の過程の中で、仲間との協調性を培い、表現力の向上に努めた。本番では、多くの観衆の中で、演じることで、自尊感情や自己肯定感を高めることに繋がっている。今後も継続し、子どもたちに「自信」を持たせたい。 ・エピソード記述の手法を用いることで、児童生徒の内面の実態把握に努めた。このことが、児童生徒の行動の裏にある心の動きを考え、実態に応じた支援を行う事につながり、児童生徒の思いやりや助け合う心の育成につながっている。						

3. 学校行事

(1)学校行事の精選、効果 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校行事は必要最小限に精選され、効果的に実施できている。	10	8	8	3	
保護者	学校は、子どもの興味関心を踏まえた学校行事や学部行事を行っており、様々な体験ができるように工夫している。	34	3	0	0	
・9年間の成長を見越した教育課程を編成している。行事の成果として、目標達成までの過程を重視し、協働的な学びを行うことで、児童生徒の主体性や協働性が培われた。一人ひとりが活躍できる機会を増やすために、計画段階から十分に話し合い、子どもたちがゆとりを持って活動ができるように留意している。このことが、児童生徒の「自信」に繋がり、行事を重ねる度に子どもたちの成長を感じることができた。						

(2)オープンスクール、参観日の実施 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	参観日、オープンスクールの運営は、工夫して効果的に実施できている。	13	12	3	1	
保護者	学校は、オープンスクールを工夫して効果的に実施している。	30	7	0	0	
・一人ひとりの実態に合わせた目標設定を行い、個性を引き出す活動になっている。保護者の皆様にも、子どもたちの成長を実感できる場となっている。こどもたちのいきいきと楽しい表情を見ていただけるように、さらに、保護者の皆様がこどもたちの成長を実感できるオープンスクール、参観日の内容の充実に努める。						

4. 交流・連携について

(1)交流教育の推進 (人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	居住地校、近隣校との交流及共同学習が計画的に実施できている。	22	7	0	0	
保護者	学校は、居住地校や近隣校との交流を可能な限り行っている。	29	8	0	0	
・副籍制度のもと、児童生徒が豊かな人間性を育んでいくことを目指し、児童生徒の目標を定め、同年代や異年齢の子どもとの交流を行うことができている。 ・個別の支援・指導計画に沿って、交流担当を中心に、時期や回数、内容等、交流の機会を設定することで、徐々に交流範囲を広げていくことも可能である。児童生徒の発達段階等を考慮し計画的に交流教育を進める。						

(2)学校と家庭、地域及び関係機関との連携

(人)

No.	設問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校と家庭や地域・福祉・施設、関係機関と連携した教育活動が効果的に実施できている。	16	12	1	0	
保護者	学校は、家庭や地域・関係機関と連携した教育活動を効果的に実施している。	22	15	0	0	
・職場体験活動やトライやるウィークなどを通して、将来の仕事に就くことを意識した職場体験実習や保護者と共に福祉施設の見学など、地域での活動に参加できた。卒業後、児童生徒が、地域での活動で大きく貢献できることを願っている。 ・放課後等デイサービス事業所と連絡帳の相互閲覧や、長期休業中等に放課後等デイサービス事業所を教員が巡回することで、事業所での児童生徒の様子を知ることができた。今後も、切れ目ない支援に向けて、学校・家庭・福祉事業所との連携に努める。						

☆保護者からの意見☆

○本人が成長出来るように工夫してくださっていてとても感謝しています。怪我への対策、生活面の向上など学校に入つてから成長が見られて親だけでなく、祖父母も喜んでいます。写真を使って本人が意思表示しやすいようにしてくださって、とても満足しています。いつもありがとうございます。

○娘に対する丁寧な関わりや、勉強以外にも様々な経験をさせて頂いている教育活動も心身の成長に繋がっていて感謝でいっぱいです。

○個々に合わせた教育内容のため、子どもたちも楽しく取り組むことができていると思います。日々のご指導とサポートありがとうございます。



☆学校関係者からの意見☆

1、学校運営について 評価 A

○毎年の取組を積み重ねられ、それが土台となり更に良い活動へつなげていかれる事を望みます。支援が必要な生徒も多様化してきていると思いますが、これからも先生方の取組を期待します。

○全国でも数少ないSPS認証校に選ばれたことは、大いに評価されることだと思います。

○豊かな植栽は、心豊かになります。きれいな物をきれいと感じる心が大事ですので、今後も継続した活動をお願いします。

○先生方は、子ども達が安心・安全・快適に学び過ごせるように学校運営に取り組んでいらっしゃると思います。

2、児童生徒の指導について 評価 A

○生徒への直接的な指導と先生方の研修等による指導力の向上における間接的な面のバランスと評価がしっかりと実行されていると思います。

○ふれあいフェスティバルのオペレッタ等のイベントへの参加は、生徒の自己肯定感を高め、エピソード記述の手法は、結果的に生徒の思いやりや助け合いの心の育成につながっていると高く評価します。

○エピソード記述について、書くことで、子どものことを客観的に知ることができる、また新しいことを知ることができます。次の教育に活かせるのではないかと思います。

○子ども理解と情報共有をていねいにされており、担任の先生だけでなく、全ての先生方が指導する内容を共通理解し、関わっておられます。特に指導に大切な子ども理解のための「エピソード記述」とその検討会を取り入れることで個々の先生方の指導力もアップされていると感じました。

3、学校行事について 評価 A

○時間が限られているとは思いますが、社会とのつながりが多くなればと思います。

○たくさんの行事を計画してこなすのは大変だと思うけれど、行事を通して成長することが大きいと感じます。

○学校として、慣例で行うのではなく、その行事を行う意味(ねらい)を考え、適切な時期に行っておられると思います。

4、交流・連携について 評価 B

○交流校とのスケジュール調整も難しいと思いますが、お互いにとってプラスになりだと思います。

○保護者どうしの悩み事の相談会やOBさんとの話をする、聞ける会などがあれば、我が子の将来への不安が少しでも減ったりするのではないかでしょうか。

○居住地校との交流やオペレッタで協力してもらう小中学校など学校関係では、交流連携ができていると思います。ただ、居住地校交流の活動が保護者により伝わることができれば、さらに充実した取組になると思います。